

航空機運航のDX推進に向けた検討会におけるこれまでの主な意見（メモ）

1. DX推進の現状と課題認識

- ・航空便のキャンセルや遅延発生時における迅速なお客様対応が課題。
- ・空港会社が航空会社から情報をもらう効率的な仕組みがなく、空港への到着便に関する情報把握が難しい。
- ・ターミナルビル内の旅客フローの把握も空港会社にとっては重要。
- ・グランドハンドリングでは人手不足や受け入れ可能時間のミスマッチによる機会損失が発生。
- ・バス、タクシーなど二次交通との情報連携が不十分。
- ・個別に入手していた情報の一括入手による効率化が期待される。
- ・プラットフォームのような共通ベースから空港毎にシステム構築をすることはコスト面にも良い。
- ・外国航空機の運航情報の把握による効率的な作業が可能になる。
- ・過去データを地域の拠点としてのターミナルビル戦略にも活用したい。
- ・提供されるデータ活用により、災害対応能力の向上が見込まれる。

2. データ提供の枠組み

1) 提供データの取り扱い

- ・提供可能なデータの内容、取り扱いについて整理が必要。
- ・データはどのような方法で提供されるか。
- ・APIの活用など、インターフェースのハードルを下げた技術展開を期待。
- ・データを遅滞なく提供できるか。

2) ガバナンス

- ・データの利用者に応じたデータの提供範囲の整理が必要（協調領域・競争領域を考慮）。
- ・個人情報の取扱いを含むデータ利用のルールの整理が必要。
- ・二次利用の考え方の整理。

3) システム設計

- ・参考データを提供頂き、良いシステムを構築する為にプロトタイプを使って検証したい。
- ・一元化されたプラットフォーム構築によるシステム開発や準備の効率化への期待。

3. ケース毎の活用

1) 平常時

①航空機運航

- ・フライトフェーズにより、随時変更される運航情報の有用性
- ・グランドハンドリングに関する人手不足の解消に期待
- ・設備・車両等の利用状況の把握や効率化
- ・グランドハンドリング機材の共通使用とその効果に期待
- ・空港関係の申請手続きのデジタル化による負担軽減

②空港運用

- ・ 空港会社がエアラインから運航情報をもろう効率的な仕組み作りが必要
- ・ 到着便の旅客情報の把握を希望
- ・ 空港共通プラットフォームの構築による作業効率化
- ・ エアサイドとランドサイドの相互情報による空港全体の効率性、利便性向上

③二次交通

- ・ 二次交通（鉄道・バス・タクシー等）との情報連携
- ・ 二次交通情報が案内可能なランドサイド用の共通プラットフォーム構築が有効
- ・ 地域の公共交通と情報連携することによるランドサイドの運用効率化

④ターミナルビルの旅客フロー

- ・ 空港到着ロビーの旅客情報収集による旅客滞留低減
- ・ ターミナルビル、旅客フローの混雑予測から空港案内や旅客誘導の人的リソース効率化
- ・ 二次交通の利用情報等を用いたターミナルビル等の旅客フローの予測と効率化

2)イレギュラー時

- ・ 2次交通の運行が乱れた際のエアラインによる迅速なお客様対応
- ・ エアラインにおける自社の運航が乱れた際の他社便への振り替え対応、リアルタイムでの空席情報の共有